大学教員へのライフシフト

人生100年、現役80年の時代、「学び続ける」ことの意義とは？

これからの時代、「知の再武装」によって既存の価値観、慣れ親しんだ世界から脱却することが求められる。自身の会社を経営するとともに、多摩大学大学院教授も務める徳岡晃一郎氏に、人生100年時代のライフシフト、大学教員というキャリアの可能性について話を聞いた。

徳岡晃一郎 KOICHIRO TOKUOKA

株式会社ライフシフト　CEO
多摩大学大学院　教授・学長特別補佐
日産自動車人事部、欧州日産を経て、フライシュマン・ヒラード・ジャパンにてSVP/パートナー。2006年より多摩大学大学院教授、研究科長を経て現職。野中郁次郎名誉教授との共同研究によるMBB（思いのマネジメント）の第一人者。著書に「MBB：思いのマネジメント」（野中郁次郎名誉教授、一條和生教授との共著）、「ビジネスモデルイノベーション」（野中名誉教授との共著）、「人工知能×ビッグデータが「人事」を変える」（福原正大氏との共著）、「イノベーターシップ」、「40代からのライフシフト」など多数。東京大学教養学部卒業。オックスフォード大学経営学修士。

現役が80年続く時代、「知の再武装」が求められる

――これからの時代、「学び続ける」ことの意義について、どのように考えておられますか。

人生100年時代とは現役で80歳まで働かなければならない時代であり、キャリアプランの見直し、学び直しが不可欠となります。人生の終わりが延びる中で、貧困や孤立、病気といったリスクを減らすには、高齢になっても価値を生み出し続けられる人材になり、社会とのつながりを保ち続けなければなりません。

これからは現役80年を見据えて早い時期からシフトチェンジを図ることが重要であり、私は40代から準備を始めたほうが良いと考えています。自分で疑似定年を設けて40代で転職したり、社会人大学院に通ったり、副業・兼業をしたり、NPO/NGOやボランティアを経験したりして「知の再武装」を進める必要があります。

また、テクノロジーは急速に進化しており、それに追いつくためにも勉強が欠かせません。さらには、ポストコロナのニューノーマルの時代に突入し、社会や経済のあり方が根本的に変わっていく中で、ミドルやシニアは率先して新しい世界をつくり上げて、それを次世代へと受け渡していかなければなりません。未来への責任という意味でも、学び直しが求められています。

ライフシフトの実現には「人生の成長戦略」が不可欠

――現役80年の時代、ライフシフトを実現するためには何が重要になりますか。

変化し続ける時代を生き延びるためには、レジリアンスを高める必要があります。それを私は「変身資産」と呼んでいます。変身資産には「オープンマインド」「知恵」「仲間」「評判」「健康」の5つの要素があります。

日本企業の教育研修費は低下する傾向にありますし、社内の知だけでは次代を切り拓くイノベーションには不足です。ミドルやシニアは引退モードではなく、むしろ若い人たちのためにイノベーションの担い手になってもらわなければならず、自らの変身資産を積極的に開拓していく必要があります。そのためには、むしろ社外の知をダイナミックに取り組む自己投資が欠かせません。

ライフシフトを支える「変身資産」の5つの要素

- オープンマインド
- 知恵
- 仲間
- 評判
- 健康

出典：本文を基に編集部作成

人生の「競争戦略」と「成長戦略」

競争戦略

- 今の会社、組織の中で昇進する
- 今の会社、組織の中で生き延びるスキルを磨く
- 現在の所属を前提
- 現在の構造の中での戦い

成長戦略

- 現在のキャリアを追いかけず、ライフシフト
- 80歳現役を見据えた戦い
- 100年人生を見据えたライフイノベーション
- 自分の土俵を変え、自分の未来を創造する

出典：徳岡晃一郎氏・資料

そもそも、日本企業では中長期のビジョンを掲げてイノベーションを推進する「成長戦略」よりも、目前の勝利を目指した「競争戦略」が重視されますから、人材育成も競争戦略に最適化されており、未来を創造する成長戦略としての人材投資はあまり行われてきませんでした。

同じように人生にも競争戦略と成長戦略があります。人生の競争戦略とは、社内での昇進を目指したり組織内で生き延びるためのスキルを磨くことです。それは悪いことではないのですが、長期ビジョンを持って人生の成長戦略を描いておかないと、現役80年の時代には対応できません。

ただ漫然と学ぶのではなく、自身のライフシフトビジョンをもとに、指針を立てて何を学ぶかを考える。どのような変身資産を蓄えていくのかを考え、現状を把握してギャップを埋めていく。そうした努力をすることが大切です。

株式会社ライフシフトは2019年10月、中高年層を対象にキャリアの再設計を支援する専門学校「ライフシフト大学」を開校しました。これまでの仕事経験の言語化、学び直しへのきっかけづくり、進みたいキャリアを発見するためのコーチングセッション、オンライン講義などを提供し、現在の市場価値を算定したうえで、定年退職後も活躍できるだけの専門力や未来の市場価値、マインドの醸成を支援しています。

独りでもライフシフトに向けた努力はできますが、やはり異業種の人たちと交流しながらのほうがやりやすい。自身のビジョンを描くうえでも、人と話しながらのほうが、未来の社会はどうなるのか、その社会に対して自分はどのように関わりたいのかなど、いろんな気づきを得られて視野を広げることができます。

大学教員として「変身資産」を築く

――大学教員というキャリアは、変身資産を築きやすい側面もあるように見えます。

その通りだと思います。私は大学教員、ベンチャー企業経営、コンサルティング会社勤務などを組み合わせたポートフォリオ型のキャリアを構築しています。

オリジナリティのある大学教員になるには、自分の知の体系をつくり上げなければならず、そのためには最先端の知を学んだり他の分野の知を結び付けていかなければなりません。いろいろなことを勉強せざるを得ませんから、変身資産の5つの要素を自然と蓄えられます。

また、大学教員になると、いろいろな人とつながりやすくなります。ロールモデルになるような人との出会いも大事で、私は野中郁次郎先生から長年にわたり教えていただくことができたので、それはとても幸運でした。

さらに、大学教員としての学びや経験はビジネスにも役立ちます。専門分野の知識はもちろん、学び方の作法や知の習慣が身に付きやすい。最近は本を読まずにインターネットで表面的な情報を得るだけの人が増えていますが、大切なのは、収集した情報を自分の知の体系に結び付けることです。

知能には「流動性知能」と「結晶性知能」があって、流動性知能は新しい情報をスピーディーに処理する能力で、結晶性知能は獲得した情報を統合したり、コンセプト化したりする能力です。流動性知能は加齢とともに衰える一方で、結晶性知能は高齢になっても維持されると言われています。

大学教員には、結晶性知能の習得につながるような学びの作法が求められます。現役80年の時代、終身にわたって成長し続けるために、大学教員というキャリアで知を再武装することは、とても有用だと思います。■